

素敵一滴



ひしお通信 24号 2009年10月発行
 編集発行：勝山文化往来館ひしお
 岡山県真庭市勝山162-3 〒717-0013
 TEL&FAX 0867-44-5880
 URL: <http://www.hishioarts.com>

木彫フオークアートが 残したもの

アートとフオークアート、芸術と民芸、それぞれに超えがたい粹があるようだ。それはあくまで人が決めた粹だけだ……
 今回の木彫フオークアートは、勝山にも在るその粹を少しだけ取り払ってくれた気がする。
 木彫という物が感じさせる肌合



松田一戯「犬神」松岡邸展示

いの優しさと暖かさが、それを作る人達の素晴らしい芸術性と巧みの技が、人々を虜にし、新たな出会いを生み、繋がりを広げてくれた。
 今後私たちに出来ること、いや、すべきことは、既存の粹にとらわれることなく、アートへの関わりを深めていける人創り、そして町造りを継続していくこと……
 素敵な宿題である。(栗田雅文)



ギャラリートークの様子

世代間交換エッセイ

第五回【たび】

▼昭和三十五年頃より夫婦六組が会員となり、積立てたお金で旅を楽しんでいた頃を懐かしく思い出します。三十五年余り続き解散しましたが今思い出せば懐かしい思い出ばかりうかんできます。
 西鹿児島から高千穂高原をぬけて宮崎に旅をした時のことです。翌朝は雨で、バケツでうつつ様な大変な豪雨でした。空港に向かう道路は川の中を行くかのように冷や冷やしました。

空港に着いて見ると飛行機の欠航が次々と表示されていて、家に帰れないのではないかと心配をしましたが、私達の乗る便だけが運航。

席にすわったものの誰も黙りこんだままです。四国の辺りに来た時窓の下をのぞき込むと小さな屋根が見えたので、やっと人心地がついた気がしました。みんな一度に口数がふえて命があったなとほっとしたのでした。

その時々旅にそれぞれの思い出がありますが、振り返って見ると当時の友達も今残っているのは私を入れて四人となってしまう。年を取っては遠出の旅は無理となり、近頃は温泉めぐりくらいとなりました。若い頃のたくさんのおもい出と合わせて今を共に楽しむ友達を大切にしながら元気に過ごしたいと思っています。

(80代女性)

▼一言で旅と言っても人それぞれのイメージ、価値観がある。

自分が慣れ親しんだ町から、一歩、外にでるのも旅だし人生そのものが旅だと、28年間しか生きてないけど、言い切れる。

帰郷して、一番最初に感じたことは、生まれた所はここなんだ、と両親や実家に近所のおばちゃんやら、世界でナンバー1の景色ではないけど、世界でオンリー1な変わらない場所だと思った。そうやって思えるのも、違う世界に住まない限り、わからなかったと思う。

飛行機に乗って遠くに行ったりすることを想像すると思うけど、明日からでも旅は出来ると思う。

例えば普段の生活で、車や電車、バスなどの交通をやめ、徒歩で通勤、通学するだけで、色々な発見があり、移動スピードを変えるだけで、世界は明らかに変わる。何事も自主的に動けば旅そのものだし、本や音楽でも精神的な旅は出来る、何事もイメージネーション次第で旅は出来ると思う。(20代男性)

世代の差のある二人(20・30代と70・80代)の方の投稿をおまじいたしております。(一人400字) ひしお通信編集部

● 次回「手紙」

ひしおのホームページがリニューアルしました。



<http://www.hishioarts.com>

すべてのページを英語・日本語で表示。いままでの展覧会・これからの展覧会情報がわかるシンプルなおサイトです。是非ご覧ください。

発売中

勝山文化往来館ひしお
 厳選オリジナルブランド

ひしお厳選のお醤油が2種類できました。国産の小麦と自然塩を使い、二年間熟成させた長期熟成しょうゆ。是非、真庭・勝山のお土産品にご利用ください。



●こいくち醤油…1本 3000円
 ●うすくち醤油…1本 3000円

世代間交換エッセイの今回のテーマは「旅」ということでした。

ある日占いの先生に見て頂く機会がありました。「あなたは移動、移動してはいけません。」確かに私は一人で旅行すると必ず「何か」がありました。新幹線が途中で停まる、高速道路は閉鎖、飛行機では岡山に着陸できない等々数えればキリがありません。それでも一人で出かけようとする私はやっぱり愚かな者なのでしょう……？
 今年は秋の到来が早かったように思います。(9月中旬にはこたつを出してしまいました。)当店スタッフに人気ナンバーワン「栗パフェ」いよいよ登場です。そして今の時季のほんのわずかな間しか登場しないピオーネジュースも発売中です。

cafe だん
 うえの店主



10月・11月・12月の催しのご案内

勝山冬アート'09

『太田三郎—蔵二居マス』

OTASABURO-IZUMI MASAURA
平成二十二年十月二日(日)～二十三日(月)祝 水曜休 午前10時～午後四時半
勝山文化往来館 ひしおホール 入場料三百円 (六ヶ月入場券も販売) 高校生以下無料

ワークショップ

『アートグッズをつくろう』

講師 太田三郎(美術作家)
ひしおでしか買えないオリジナルグッズを企画・制作します。
日時/11月3日から数回開催。場所/ひしお
参加費/2,000円 参加人数/10名程度

『糸を紡ごう』講師 原田豊美(染織家)
ウール、コットンなどの原材料から紡ぎ出します。
日時/11月1日(日)
1回目10時、2回目13時
場所/旧郵便局
参加費/2,000円 参加人数/10名程度

『糸を紡ごう』講師 原田豊美(染織家)

『ウッド・カーヴィング』工房
講師 上田 徹(ウッド・カーヴァー)
ウッド・カーヴィングの実演と体験。
日時/11月1日(日)・3日(火)・8日(日)・
14日(土)・15日(日)・22日(日)・23日(月)祝
場所/松岡邸 参加費/美費

『竹細工』工房

竹細工の花器をつくる体験。
日時/11月8日(日)・22日(日)・23日(月)祝
13時
場所/頼山亭 参加費/1,000円

【ひしお講座 現在開講中!】

美作地域の文化、クラフト、アートの交流をより一層感じられる拠点を皆様と共につくっていきたい。その想いから「ひしお文化交流講座」を開講中です。

『英語でコミュニケーション』 毎週金曜日午後8時～9時
対象:大人(初回のみ無料)

『藍染教室』(今年度は10月15日(木)が最終日) [定員満近]

年齢を問わず、初心者の方から始められます。随時受け付けております。どうぞお誘い合わせの上、お申込みください。(手織り教室は年休は休みとさせていただきます。ご了承ください。)

●催しに関するお問い合わせは ひしお事務局 ☎44-58800まで

町並み展覧会

『太田三郎作品展』

日時/11月1日(日)～23日(月)祝
10時～18時 水曜休
場所/ひのき草木染織ギャラリー
入場料/無料

ギャラリートーク&

ティーパーティー

日時/11月3日(火)・祝
13時半、場所/ひしお
太田三郎氏が制作への思いなどをお話します。



『子供英会話教室』

毎週土曜日
●小学1年～3年 …午前10時～10時45分
●小学4年～6年 …午前11時～11時45分

随時受付中!!

◆読者投稿◆ あなたからの投稿もお待ちしております

私の勝山体験

一週間の滞在でしたが、最後は離れ難い場所となりました。ひしお関係者の方は勿論、町並みの皆さんが温かく接してくださいました。

特に「かつやま町並み保存事業を応援する会」の方々は搬入含め、期間中のイベント、片付け、その他もろもろのこと全てに於いて常に立ち会って、お手伝い頂きました。最初私はこのおじさま方がどういった人なのか分かっておらず「なぜこの人たちは仕事でもないのにこんなに手伝ってくれるんだろう……?」と正直戸惑っていましたが、皆さん小さい頃からの付き合い合いで仲が良く、何をす

も楽しそうで、「皆が集まれば出来ないことは無いから安心しなさい」と言われた時は非常に心強かったです。

でも考えてみれば私が現在就いているこの仕事も直接的な利益にはなりにくいものであり、ただ自分が良いと思うものだけを信じてつくり続けるしかありません。きっとこのおじさまたちも同じなんじゃないだろうかと思つた瞬間から、私は勝手に同志のような気になっていました。

古いものも大切に残しながらも創造性のあるこの町は、強い信念を持った人たちによって支えられている—私も負けれないなど大いに刺激を受け、沖繩に戻つた今も同志のことを思い出しながら仕事に励んでいます。(長尾恵那)

ワークショップの様子



佐々木紀政さん



松田一蔵さん



ワークショップ参加者作品

実演の様子



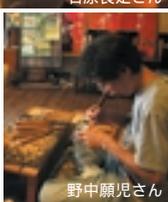
長尾恵那さん丸太切り



石原良定さん



小野貴登さん



野中顯児さん



真庭いきいきテレビが「夏アート」の番組を制作

〜ひろこのロンドン便り〜

木彫フォークアートで盛り上がった夏であった。養父市からお借りした全国公募入選作品20点。ひしおホールに展示された作品は、それぞれに个性的で、パワフルな存在感が漂った。どれも面白い! おかしかったり、ベースを感じさせられたり、ほのぼのとした暖かさにみちたものやら、ヴァリエティ豊かである。一つ一つを観た後会場を眺め直して……根付けの世界だ! 大型根付けだあ!

印籠の付属品であった根付けは日本美術の主流からはずれたものとして、日本では、最近まで価値を認められなかった。70年代、ロンドンのオークションで高い値段で競り落とされる根付けを初めてみて驚いたものだ。「日本の正統派美術の世界にはみられない日本人のユーモアが見事に表現されている」ときいて、なるほど。木彫フォークアート、日常生活の中から生まれた身近なアート。根付けの素晴らしい伝統が生きている。世界で紹介したいものである。(館長辻ひろこ)



「食べ盛り」オープニングのギャラリートークにお越しいただいた市川裕之さんの作品